

10. 救急・集中治療コース

救急部長	西山 謹吾 (指導責任者)	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医 JATEC・JPTEC・ICLS・ITLS・DMAT・MCLS インストラクター 日本 DMAT 隊員、統括 DMAT
救急副部長	山崎 浩史 (指導医)	日本救急医学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医 JATEC・JPTEC・ICLS・DMAT・MCLS インストラクター 日本 DMAT 隊員、総括 DMAT
医師	島津 友一 (指導医)	日本麻酔科学会認定医 日本救急医学会専門医 JATEC・ICLS・ITLS インストラクター 日本 DMAT 隊員
医師	西森 久美子 (指導医)	日本麻酔科学会専門医 日本救急医学会専門医 JATEC・JPTEC・ICLS インストラクター
医師	原 真也 (指導医)	日本救急医学会専門医 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 JATEC・JPTEC・ICLS・DMAT・MCLS・AHA-BLS インストラクター 日本 DMAT 隊員、総括 DMAT
医師	廣田 誠二 (指導医)	日本麻酔科学会認定医・専門医 日本救急医学会専門医 日本旅行医学会認定医 日本周術期経食道心エコー認定医 JPTEC・ICLS インストラクター 日本 DMAT 隊員
医師	村上 翼	日本救急医学会専門医 日本麻酔科学会認定医 日本内科学会認定医、日本旅行医学会認定医 ICLS インストラクター

後期研修医	森 学美	
後期研修医	安岡 やよい	経食道心エコー認定医 (JB-POT)
後期研修医	藤本 枝里	
後期研修医	本多 康人	

【一般目標 : GIO】

1. 内科外科を問わずあらゆる救急患者を診察し、診断と救急初療ができるようになる。
2. 重症患者の集中治療管理ができる救急医になる。
3. 災害医療活動を理解し、動けるようになる。

【行動目標 : SBOs】

1. 救急隊活動に精通し、メディカルコントロールを理解し実践できるようになる。
2. 救急医療に必要な幅広い知識と技能を身につける。
3. 緊急検査のオーダーとその解釈ができるようになる。
4. 人工呼吸を含めた集中治療ができるようになる。
5. 各種血液浄化の適応、判断、治療ができるようになる。
6. 救急集中治療の各種スコアリングができるようになる。
7. JPTEC インストラクターになる。
8. JATEC インストラクターになる。
9. ICLS インストラクターになる。
10. PSLS・ISLS インストラクターになる。
11. DMAT インストラクターになる。
12. 日赤災害救護活動に積極的に参加する。

【取得可能資格】

麻酔科標榜医

日本麻酔科学会専門医

日本救急医学会専門医

日本集中治療医学会専門医

【経験目標症例等】

①症例数

主要疾患名	症例数	経験目標症例数
心肺停止	174	50
重症脳血管障害	312	50
急性心筋梗塞・心不全	230	50
急性中毒	48	20
急性呼吸不全	98	30
重症代謝疾患	65	20
解離性大動脈瘤など	32	10
重症多発外傷	34	20
重症広範囲熱傷	3	3

②手技等

手術又は手技等	経験目標件数
人工呼吸	30
血液浄化	30
高気圧酸素治療	5
気管切開	10

【その他特色】

一次から三次まで幅広く救急患者を受け入れている。1年間の救急外来受診患者総数は約18000人、救急車での搬送患者数は約5200人である。救急車で来院する患者の初療は原則救急部で行い、各専科の治療が必要な場合は専科の医師の診察をお願いする。重症患者は救命救急センターのICUへ入院となり、救急部を中心にすべての科のDrと治療に当たる。そのコーディネーターは救急部が行い、集中治療のできる救急医育成を目指している。

希望に応じて4年の内は最初の2年で麻酔に専従し、麻酔科標榜医を取得後に救急・集中治療を行うこともできる。麻酔に関しては徳島赤十字病院、高知大学付属病院で研修することも可能である。その他、4年間の内、国内留学についてはできるだけ個々に柔軟に対応したい。